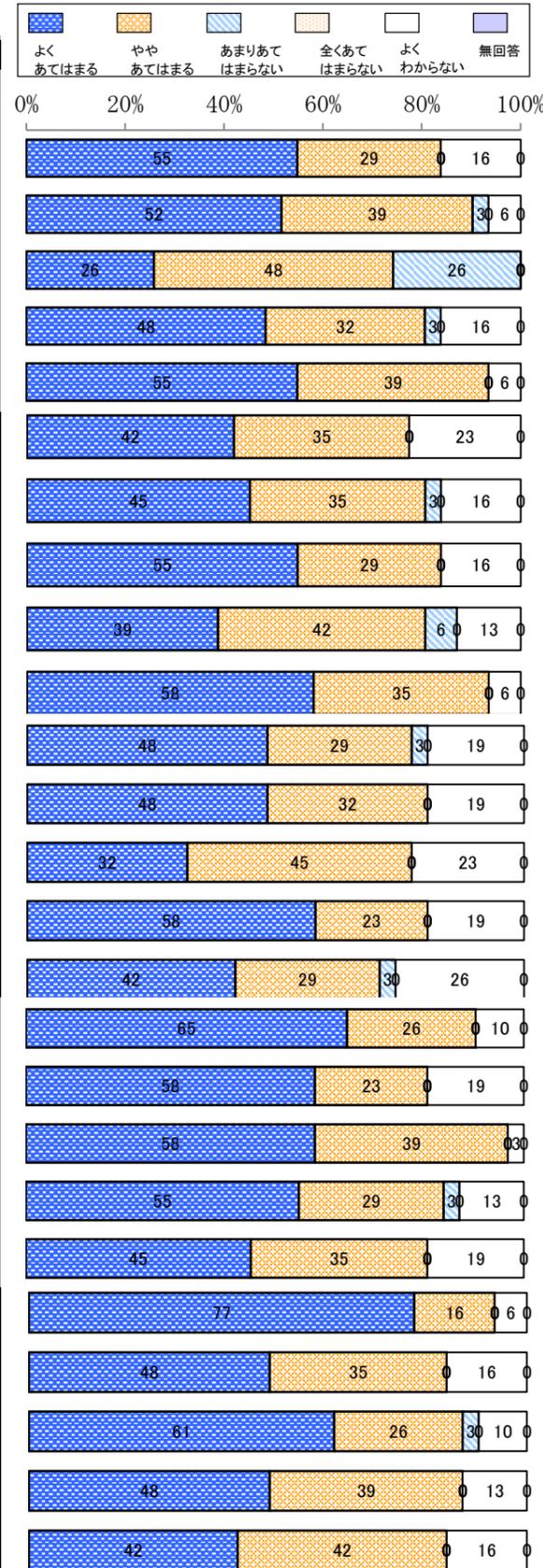


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	44 39	41 56	11 3	2 0	2 2	0 0
	2	児童・生徒の様子	67 41	22 55	7 3	2 0	2 0	0 0
	3	基本的な生活習慣	45 22	43 64	8 13	3 0	1 0	0 0
	4	児童・生徒理解	46 31	40 57	9 9	3 0	2 2	0 0
	5	健康・安全・安心	62 47	27 48	6 3	3 0	2 2	0 0
学力向上の取組	6	分かる授業	59 33	32 57	6 5	2 1	1 4	0 0
	7	個に応じた指導	63 34	27 48	8 10	1 0	1 8	0 0
	8	学習習慣	73 44	20 46	6 7	1 0	1 3	0 0
	9	情報教育	69 43	25 43	4 4	1 0	1 10	0 0
	10	学校図書館の活用	78 46	15 47	4 4	2 0	0 2	0 0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	64 22	30 59	4 8	0 0	1 12	0 0
	12	道徳教育	52 28	37 60	6 5	2 0	3 7	0 0
	13	教育相談	50 22	24 56	19 7	5 1	3 14	0 0
	14	人間関係づくり	79 61	17 37	2 1	1 0	0 0	0 0
	15	自治的な活動	60 51	33 45	6 2	1 0	1 2	0 0
保護者・地域との連携	16	情報発信	52 49	21 44	8 5	3 0	16 1	0 0
	17	相談への対応	58 42	34 46	4 7	1 1	2 3	0 0
	18	学校への参加	67 55	21 38	7 6	2 1	3 0	0 0
	19	地域との連携	47 39	27 44	17 5	7 0	2 11	0 0
	20	意見の反映	50 33	32 46	6 7	3 1	9 14	0 0
各学校の特色ある教育	21	学校行事の取組	72 49	19 45	6 2	2 1	1 3	0 0
	22	基礎・基本の定着	53 40	26 47	12 6	6 0	3 7	0 0
	23	自主的な休み時間の活用	75 57	17 39	5 2	3 1	1 2	0 0
	24	異学年交流の推進	53 48	28 46	10 2	4 0	4 4	0 0
	25	外部人材の活用	57 39	27 46	11 2	2 0	3 13	0 0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

○肯定群は多いが、児童の否定群が11.5%に対し保護者の否定群は3%である。児童にとってはなじみ深い3つのキャラクターと教育目標・取組との関連をより分かりやすく伝えていく必要がある。

◎児童の89%、保護者の96%が肯定群。児童同士の関係をさらに構築できるように、継続して見守り、声をかけていく

△児童の肯定感は88%、保護者86%に対し、教員74%と児童・保護者と教職員の認識に差異がみられる。引き続き学校全体でありさつやきまりについて徹底できるよう指導を継続していく。

◎昨年度児童の否定群が16%に対し、12%まで減少した。自己肯定感を得られるような指導の工夫を充実させ、引き続き丁寧な対応を行っていく。

◎保護者は95%が肯定群である。年度初めに実施している引き取り訓練や、月1回の避難訓練などの取組が認められていると思われる。児童の9%が否定群であるので、防災教育の意義についてより具体的に周知していく。

◎児童・保護者とも91%が肯定群である。今後もより分かりやすい授業を工夫していく。

◎児童の90%が肯定群である。算数学習別指導の実施や授業での個に応じた指導が児童の分かりやすさの実感につながっているものと思われる。

◎児童・保護者共に肯定群が90%を超えている。あらかわ寺子屋の実施や家庭学習の課題等で、学習習慣の定着に向けて取り組んでいる。寺子屋については、より自主的に参加できるような工夫をしていく。

◎電子黒板が全学級で使われており、分かりやすい授業を支えている。タブレットPCは各学年が様々な教科で活用している。今後もより一層効果的な活用に取り組む。

◎児童の利用回数も増えている。今後は読書だけではなく、総合的な学習の時間や社会科などでも調べ学習に活用している事実が認識できるようにする。

△児童の94%が肯定群である一方、保護者の11.6%、教職員の19.4%がよく分からないと回答している。いじめ対策を実施している事実を周知するとともに、今後も組織的に進んでいく。

◎児童は7ポイント、保護者は4ポイント肯定群が向上している。道徳授業地区公開講座だけでなく土曜授業公開や公開週間での授業、保護者会での周知など行っていく。児童には、道徳の授業だけでなく日常での指導も重視していく。

△児童・保護者の肯定群は70%台。担任はもちろん、養護教諭やスクールカウンセラーなど、幅広く相談できる体制であることを伝えていくとともに、今後とも組織的対応、丁寧な初期対応に努める。

◎児童も保護者も96%以上肯定群である。よい人間関係を築き、仲良く学校生活を送っていること分かる。

◎高学年を中心に自治的な活動をし、下学年に引き継いでいっている。今後ますます充実させていきたい。

○保護者は学校からの配布物やHPをよく見ている。PTAとも連携しHPをリニューアルすることにより、保護者の利用が増えた。児童には学校で見せたりどんな内容が掲載されているか丁寧に伝えたりしていく。

◎児童の肯定群が昨年度と比べ8%向上している。高学年になるにつれ否定群が増える。相談内容に応じて、組織として丁寧に取り組む必要がある。

◎保護者からの意見を考慮して、学校行事等柔軟な対応をとった経緯があり、おおむね肯定的である。今年度は保護者会を土曜に設置するなど、多くの保護者が参加できるよう努めた。

△昨年度より2ポイント改善したが、依然24%の児童が否定群である。学校からも参加の呼びかけ等を行っていく。また、地域や町会の方とも連携し、児童が参加できる行事等を知らせていく。

△保護者の肯定群が昨年度から3ポイント下がった。また、よく分からないが14%であった。評価アンケートの結果、一昨年から昨年度にかけて変更した内容に対して評価が低かったと思われる。

◎児童のほとんどが学校行事に主体的に参加している。活躍の様子を保護者にも期待され、励まされていることがわかった。

◎ほとんどの児童がマスタータイムを中心に基礎基本の徹底を図っている。今年度同様、課題のある児童はあらかわ寺子屋などでも学習するように促す。

◎92%の児童が校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして、自分で考えながら休み時間を楽しく過ごすことができていた。約30分間のスーパー昼休みを来年度も引き続き設定していく。

○81%の児童が肯定群である。しかし、14%の否定群の存在するので、活動内容や方法の見直しと改善を図っていく必要がある。

△児童の16%、保護者の15%が分からないという回答を含み否定群だった。教育活動における外部人材がどのように位置付けられているかを周知していく必要がある。